

唯物論研究協会 第38回研究大会

2015年10月18日 個人研究発表

賃金闘争としての福祉国家

—権力資源動員論と労働市場の独占価格の観点から—

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 博士後期課程

天池洋介

1、問題意識

派遣切りによって、失業が生活困窮につながる日本の福祉国家の脆弱さが明らかに

世界的な福祉国家の弱体化

…弱体化の内実が不明瞭（民営化？ 給付の削減？ ワークフェア？）

福祉国家の多様性よりも、強度や有効性が問われている

国家が国民の生活を確実に保障しているかどうか、それをどのように行っているのか

2、先行研究 福祉レジーム論（多様性論）

近年の福祉国家論はエスピン＝アンデルセンの議論に基づいた、福祉レジーム論

各国ごとに異なる福祉国家の多様な姿を、多様なアクターとともに描き出す

＝自由主義、保守主義、社会民主主義の3つのレジーム

福祉国家の強度や有効性の是非が疎かに

横並びの比較から、縦の比較へ

生活保障が不十分なアメリカや日本を福祉国家と呼んでいいものか

3、先行研究 権力資源動員論

福祉国家論で繰り返し取り上げられてきたのが権力資源動員論

労働組合、労働者政党による政治的権力の動員によって福祉国家が形成される

＝福祉国家発展の主な要因は階級闘争

その他の福祉国家論（政治学による分類）

収斂論：高齢化によって福祉国家が発展する

福祉レジーム論：上記、福祉国家の多様性論

階級交差連合論：労働側だけでなく、資本側による福祉国家発展の役割も重視

政治領域の自律性論：国家や政党、世論などの独自性を強調

どのように福祉国家を機能させるのか、いずれも福祉国家の経済的メカニズムが不明

4、福祉国家とは？ 労働力の保蔵と独占価格の形成

1) 労働市場が自由競争の場合

労働者はその商品である労働力を日々売ることなしには生活できない

＝労働力商品は保蔵ができない→供給過剰となる

価格メカニズムに基づいて、価格が下落

価値（生活水準）以下の価格で売らざるを得ない

2) 労働市場に独占価格が形成される場合

労働組合が団体交渉を行う

価格メカニズムの発動が抑制される＝価格が政治的に決定される

産別交渉に拡大することで独占価格を形成する

失業共済を組織する

部分的に労働力の保蔵が可能になる

部分的に労働力の数量調整に変化する

3) 労働市場に福祉国家が関わる場合

失業保障や年金給付による生活保障（社会的賃金）が提供される

労働力の保蔵が可能となる

↓

社会的賃金以下での賃労働を排除する

価格メカニズムの発動を抑える

＝価格調整から数量調整へ

社会的賃金水準が独占価格となる

5、賃金闘争としての福祉国家

エスピン＝アンデルセンが福祉国家の基準として挙げる労働力の「脱商品化」

＝一人の人間が市場に依存することなく生活を維持できるようになること

福祉国家は労働市場から距離をおいた福祉受給者のためだけの制度となる

広範な運動にはなり得ない

受給可能性だけでは労働者の権力資源を動員することはできない

福祉国家の形成や強化は労働市場における独占価格の維持・強化のためのもの

=労働者の現実的な問題である労働運動の賃金闘争の一形態

労働の延長線上に社会保障や福祉国家が位置づけられることで、権力資源を動員可能に

6、今後の課題

各国における福祉国家と労働運動の歴史の比較

賃金と社会的賃金（生活保障給付）の額面での相関関係

特にアングロサクソン諸国の不十分な生活保障について、福祉国家に値するのか再検討

独占価格をめぐる闘争のあり方

資本：独占を打ち破る＝過剰供給、社会的賃金の減額

労働：独占を形成する＝過小供給、社会的賃金の増額

最低賃金制度の位置づけ、特に企業別組合諸国

<参考文献>

Esping-Andersen, Gøsta (1990) *The Three worlds of welfare capitalism*, Basil Blackwell Limited. (岡沢憲夫・宮本太郎訳 2003 『福祉資本主義の三つの世界』 ミネルヴァ書房).

Friedman, Milton (2002) *Capitalism and freedom:40th anniversary edition with a new preface*, The University of Chicago. (村井章子訳 2008 『資本主義と自由』 日経 BP 社).

Gough, Ian (1979) *The Political Economy of the Welfare State*, Macmillan Education Ltd. (小谷義次ほか訳 1992 『福祉国家の経済学』 大月書店) .

Hayek, F.A. (1960) *The condition of Liberty part III : Freedom in the welfare state*. (気賀健三・古賀勝次郎訳 1997 『福祉国家における自由－自由の条件Ⅲ <新装版ハイエク全集第7巻>』 春秋社).

Stiglitz, Joseph E. and Walsh, Carl E. (2006) *Economics (4th)*, W.W.North & Company.Inc. (藪下史郎ほか訳 2013 『スティグリッツ ミクロ経済学 第4版』 東洋経済新報社).

Wahl, Asbjorn (2011) *The Rise and Fall of the Welfare State*, Pluto Press. (渡辺雅男訳 2013 『福祉国家の興亡 (こぶしフォーラム 24)』 こぶし書房) .

宇仁宏幸ほか (2005) 『入門 社会経済学－資本主義を理解する』 ナカニシヤ出版 .

岡本英男 (2007) 『福祉国家の可能性』 東京大学出版会 .

加藤雅俊 (2013) 「福祉政治の理論 －多様性をめぐる権力・利益・言説分析－」 『比較福祉国家』 ミネルヴァ書房 .

新川敏光 (2011) 「福祉国家変容の比較枠組」 『福祉レジームの収斂と分岐 －脱商品化と脱家族化の多様性－』 ミネルヴァ書房 .

－ (2014) 『福祉国家変革の理路 －労働・福祉・自由』 ミネルヴァ書房 .

福祉国家構想研究会 (2013) 『失業・半失業者が暮らせる制度の構築－雇用崩壊からの脱却』 大月書店 .